

“キラリ企業”の現場から

第

120

回

大田区にマテリアルあり～夢をカタチに～

株式会社マテリアル

マテリアル誕生

株式会社マテリアル(以下同社)は、来年、平成29年に創業25周年を迎える企業である。

細貝社長は定時制高校に通いながら、数々の仕事を経験した。材料問屋に勤務していたころ「材料を販売するだけでなく加工まで一括して行う会社があったら、もっと喜んでもらえるのではないか。」ということに気づき勤務先の社長に進言したものの、即座に却下された。

この思いを実現するためには独立するしかないを決断し、コツコツ貯めた1,000万円を資金に独立した。社長と奥様の二人三脚で寝る間を惜しんで働き、一年後の平成4年、細貝社長が26歳の時、有限会社マテリアルが誕生した。

創業時、一日20時間も働いた・・・と、想像を絶するご苦労があったと推察されるが、ここまで続けてこられたのはものづくりが好きだから、と細貝社長は語った。その熱き思いと、志の高さが同社の成長を支えてきたといえる。現在は大田区内に4カ所の工場を有し、従業員は35名と、金属加工部品の材料調達、部品加工、検査までを一貫生産できる人員、設備を有する企業へと成長した。

成長とともに歩む公社事業

同社の公社事業の利用は、平成14年度の“中小企業テクノフェア(現在は中小企業総合展)”への出展に始まり、取引あっせん、ISO取得支援や展示会出展の助成金、合同商談会等への出展、経営研修の受講と多岐にわたる。

従業員が増えていく一方、経営者として人を育てていくことに限界を感じ、彼らが自ら“育つ”場を模索する中で、平成18年度にオーダーメイド研修(注1)と出会う。この後、従業員の学びの場を立ち上げる際の土台となった。

また、機械設備に対する投資には、成長産業等設備投資特別支援助成事業(注2)を利用、「高額な機械なので、半分、助成してもらえたのは大変助かりました。設備投資の機会を逃すことなく導入できました。」と適時、支援事業を活用している。

平成26年度は、大型同時5軸マシニングセンタを導入し、高精度の精密部品加工が短時間で可能となった。導入当初、試作段階であった航空機関係の部品が、いまでは定期的な取引へと進展している。

さらに、平成27年度には、レーザースキャニング機能搭載大型三次元測定機を導入した。「より精緻なデータが高速で測定でき、長さ1,600mmまでの大型加工部品の検査が可能のため、検査工程の効率化や他社との差別化を図ることができました。」とその効果を実感した。

信頼される企業とは

信頼される企業であるために重要なことは3つあるという細貝社長。

第一に、従業員の育成。「経営者に人は育てられない。人が自ら“育とう”と思わなければ人は育たない。その環境に投資すること、育つ方向を会社の方針とそろえることが経営者の仕事。」と語る。

社員教育の場として週1回、技術士を招いて育成の場を設けている。わからないことを「自分で」聞ける機会を



成長産業等設備投資特別支援助成事業を利用して導入した、大型同時5軸制御可能なマシニングセンタ(左)と1,600mmまで測定可能な三次元測定機(右)

公社の支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第120回は、材料販売から、設計、精密加工、検査までを一貫して行う株式会社マテリアル(大田区)をご紹介します。同社には、当公社の「成長産業等設備投資特別支援助成事業」のほか各種助成金や「オーダーメイド研修」などをご利用いただいています。



株式会社マテリアル
代表取締役
細貝 淳一 氏

代表者 / 代表取締役 細貝 淳一
資本金 / 2,001万円 従業員 / 35名
所在地 / 東京都大田区南六郷3-22-11
TEL / 03-3733-3915 FAX / 03-3733-3819
URL / <http://www.material-web.net/>

与えて、それを求めるかどうかは社員の自主性に任せている。これにより社員同士のモチベーションの向上につながり、その成果として国家検定一級機械加工技能士が9名誕生している。

第二に、取引先からの要求に対し確実に、そして継続して応えること。品質管理等をテーマに研修を継続的に実施しており、さらなる技術の向上を目指してノウハウが蓄積される仕組みが自発的に作られている。これらが高い技術力の裏付けとなり、顧客からの様々な要求に応え、機械加工等に関するコメントができる秘訣であり、信頼につながっている。

第三に、健全な財務体質であること。徹底した合理化をめざして、業務にムダがないか従業員一人ひとりがチェック、日々業務改善に取り組んでいる。これらの努力の積み重ねにより、経費節減が具現化し、同社を利益体質へと導いていた。

そんな折、リーマンショックの影響で、売上が半減することとなる。

この危機を保険等の内部留保を取り崩すことで、黒字を維持した。同業他社が、赤字が当然とするなかで、当時のこの英断は、従業員を安心させるとともに、同社が健全な財務体質であるという取引先の評価をさらに高めた。

人が自ら育つことで技術力が高められ、また業務効率化に努めることにより財務体質の強化が実現。すべてが相乗効果となって、信頼の礎を築いている。

これからのマテリアル

まもなく創業25周年を迎える今、「ものづくりを通じて、誰かが困っていることを解決して、笑顔にしたい。」との思いはさらに広がる。



一枚の板から削り出した精密加工部品

地元の都立高校から継続してインターンシップ受入に協力し、地域貢献活動も行っている同社だが、地域について、「人は一人では生きることができない。存在そのものがそこに住む人々の心の支えになっているのが地域であり、支えてくれたことへの感謝の気持ちを還元していきたい。」と社長は語る。

その地域の力を結集した「下町ボブスレー」は、ものづくりの街・大田区を世界に発信した。細貝社長は同プロジェクトのゼネラルマネージャー兼広報委員長として、講演等を精力的に行っており、活動の幅がますます広がっている。

そして、新たな自社製品として“隣の顔が見えるコミュニケーションを重視した、移動式ベンチシート”を開発した。スタイリッシュなデザインと温かみのあるシートの絵柄が特長で、軽量化も実現し移動用にも便利。「このベンチシートで東京オリンピック観戦、テーマパーク等へ3世代での来場などに活用を想定している。“世代をつなぐ”“絆を深める”アイテムにしたい。」と細貝社長は、今後の製品化に意欲的だ。

従業員のみならず地域の若者を育て、地域の中小企業を導き、笑顔にする、“地域への愛”をも形にする会社、マテリアル。これからも目が離せない企業である。

(設備リース課 土門洋子)

(注1) オーダーメイド研修…
問題解決のためのオリジナル研修を、希望の時間・場所・内容で予算に応じて実施。人材育成や経営改善、組織の活性化を支援する事業(有料)。

(注2) 成長産業等設備投資特別支援助成事業…
成長産業分野での事業展開等に必要となる機械設備の新たな導入に要する費用の一部を助成する事業。中小企業等が対象者の場合は、助成限度額は1億円、助成率1/2、助成対象期間は1年9ヶ月。



会話も心も弾む!新製品の癒しのベンチシート